九州体育・保健体育ネットワーク沖縄大会

おきなわシーサーラウンド IN 石垣島

令和７年１１月２２日（土）

沖縄県立八重山高等学校＋Zoom

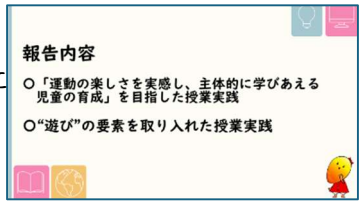
今年度、沖縄県学校体育研究発表大会は石垣島で開催されました。そのため県内外から多くの参観者が訪れました。夜の宴も大盛況で、佐藤先生も沖縄民謡居酒屋で太鼓を担当するなど大活躍！その翌日開催となったシーサーラウンドでは多くの参加者が、2～3 本のペットボトルを抱えての参加となりました。

😊【会場参加者 35 名、Ｚｏｏｍ参加者７名】

1　情報提供【東京国際大学　木原慎介　准教授】

木原准教授の情報提供は、体育授業における ICT 活用の是非をめぐる矛盾を提示し、その解決策として「ICT 活用 2.0」を提唱するものでした。具体的には、動作の客観視と課題解決に焦点を当てた従来の「ICT 活用 1.0」に対し、生徒の感覚的な体験との乖離やデジタルツールへの飽きといった現場の矛盾を指摘されました。さらに、W.ベンヤミンの議論などを引用し、ICT が身体を単なる数値データや「都合のよい身体」に矮小化し、文化的・感情的な重みを失わせる危険性があることが示唆されました。そして、その解決策として提唱された「ICT 活用 2.0」では、技術を自己・他者との対話のきっかけとし、身体の「余白」（幅）を広げることで、主観的・経験的な身体の豊かさを深めることが重要であるというご提案でした。

2　実践報告【豊見城市座安小学校　比嘉七海　体育専科】



比嘉七海教諭による実践研究は、「運動の楽しさを実感し、主体的に学びあえる児童の育成」を目的とし、以下の二点を核とした取り組みについて報告がありました。

(1)「問い」と「対話」を基軸とした授業設計: 第 4 学年のネット型ゲームにおいて、児童の課題意識から生まれた「問い」を中心に授業を展開することで、主体的・協働的な学びと運動有能感の向上がみられた。

(2)「遊び」を活用した基礎感覚づくり運動: 多様な運動遊びを導入することで、基礎的な身体能力を養い、運動への「楽しい」「好き」という肯定的な感情を育む効果がみられた。

児童の主体性を引き出す発問と、導入段階における「遊び」の戦略的活用が、運動苦手意識の克服と、全ての児童が達成感を得られる体育授業を実現するための鍵であるという実践報告でした。

3　ワークショップ　まとめ

「体育科・保健体育科における中核的概念の探求」

ワークショップでは、全ての領域で低学年では「楽しさ」や「遊びの要素」を重視し、高学年では「動きのメカニズムの理解」や「戦術的思考」へと重点が移行する学年段階に応じた体系的な育成計画と、それが日常生活や社会生活における実践的な能力に直結している点が強調され、話し合われました。

初の石垣島開催、大盛況でした。石垣の皆様に感謝！